

# 未来を拓く学校づくり

～「たくましく心豊かな地球市民」を育む  
12年間の幼小中一貫教育のすがた～



信州大学教育学部附属松本学校園



1. **本研究の成果**
2. 「たくましく心豊かな地球市民」を育む『学びの総合化』
3. 『学びの総合化』における12年間の教育過程
4. 【遊びの領域化】から見る共有されたビジョン
5. 今後の課題と方向性

## 本学校園に訪れた先生の言葉



- 「どうして、こんなに意欲的に追究をする子どもたちの姿があるの？私の学校では、考えられない。」
- 「でも・・・附属だからでしょ。入学した当初からきっとそういう子どもたちだったんでしょ。」

では、本学校園の子どもたちの実態は？

## 本学校園の子どもの実態①

### 中学3年生の3年間の総合の振り返り

今何が分かっている、何が分かっているのか、次に何の実験をすればいいのか…。ゼロからの実験は一筋縄ではいかず、課題が山積みで、そこが**難しさであり楽しさ**でもあった。手探りの中での活動だったが、計約30回の実験を一つ一つこなし、結果・考察をまとめていく内に、だんだんと完成が見えてきた。総合を通して、**こつこつ丁寧に進めること、分からなくなってもあきらめないことの大切さを学び**、たくさんの達成感を味わえた。



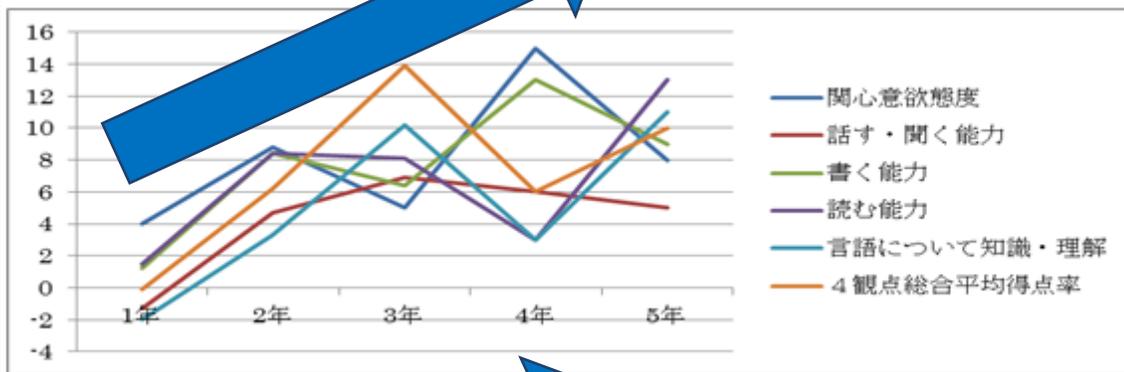
- **子どもの意欲を高めやりたいことを深める学び**

**それで学力は伸びているの？**

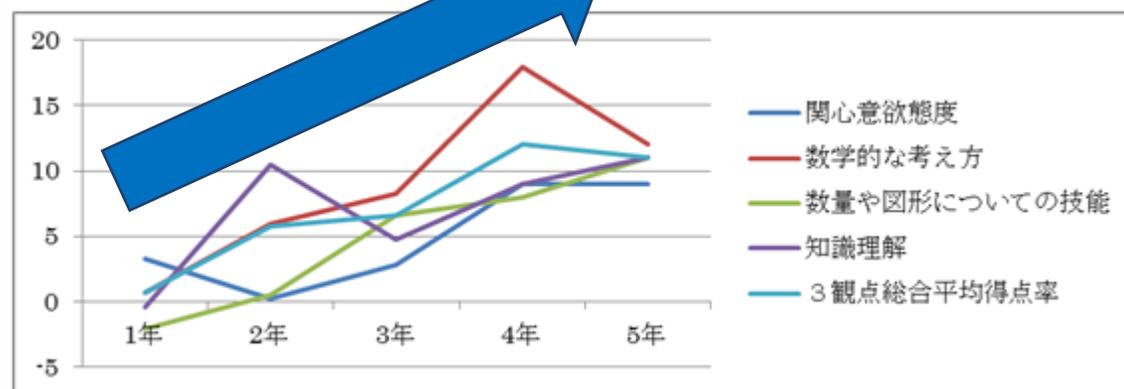
## 本学校園の子どもの実態②

現6年生の1年～5年までのCRTテストの結果

国語



算数



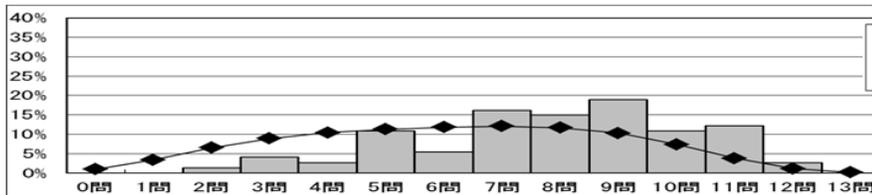
- 1年次は全国平均より下
- 開発1年目の3年，4年から確実に学力を伸ばしている。

**この学年だけの話ではないの？**

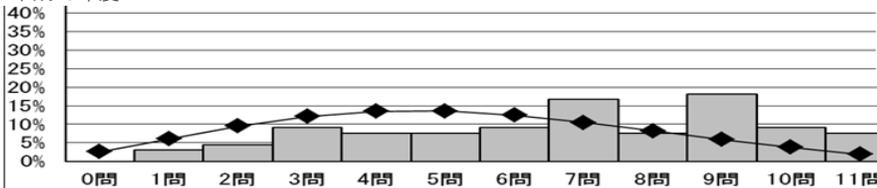
# 本学校園の子どもの実態③

## 過去4年間の全国学調・全国と本校の比較

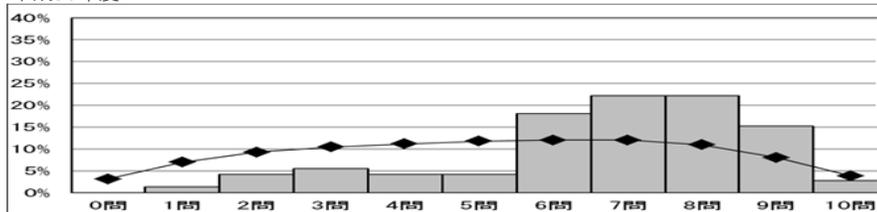
平成28年度



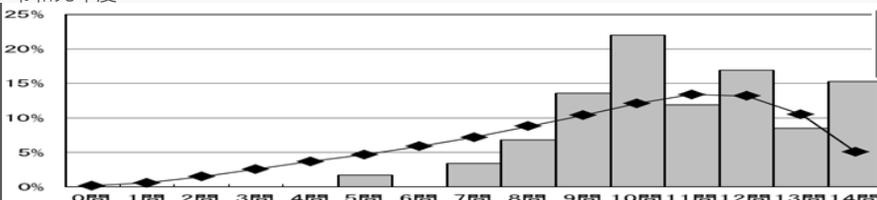
平成29年度



平成30年度



令和元年度



- 4年間の研究により散らばりが大きかった学力差が縮まり，学力の高い方にまとまってきている。

**なぜ，このような成果が得られたか？**



1. 本研究の成果
2. 「たくましく心豊かな地球市民」を育む『学びの総合化』
3. 『学びの総合化』における12年間の教育過程
4. 【遊びの領域化】から見る共有されたビジョン
5. 今後の課題と方向性

## 子どもから見いだした内在するよさ

自分らしく表現  
したい！



自分なりのこだわり  
を追究したい！



友だちといっしょ  
に作りたい！



# 子どもに**内在する資質・能力** = 『**3つの力**』

## 自己表現力



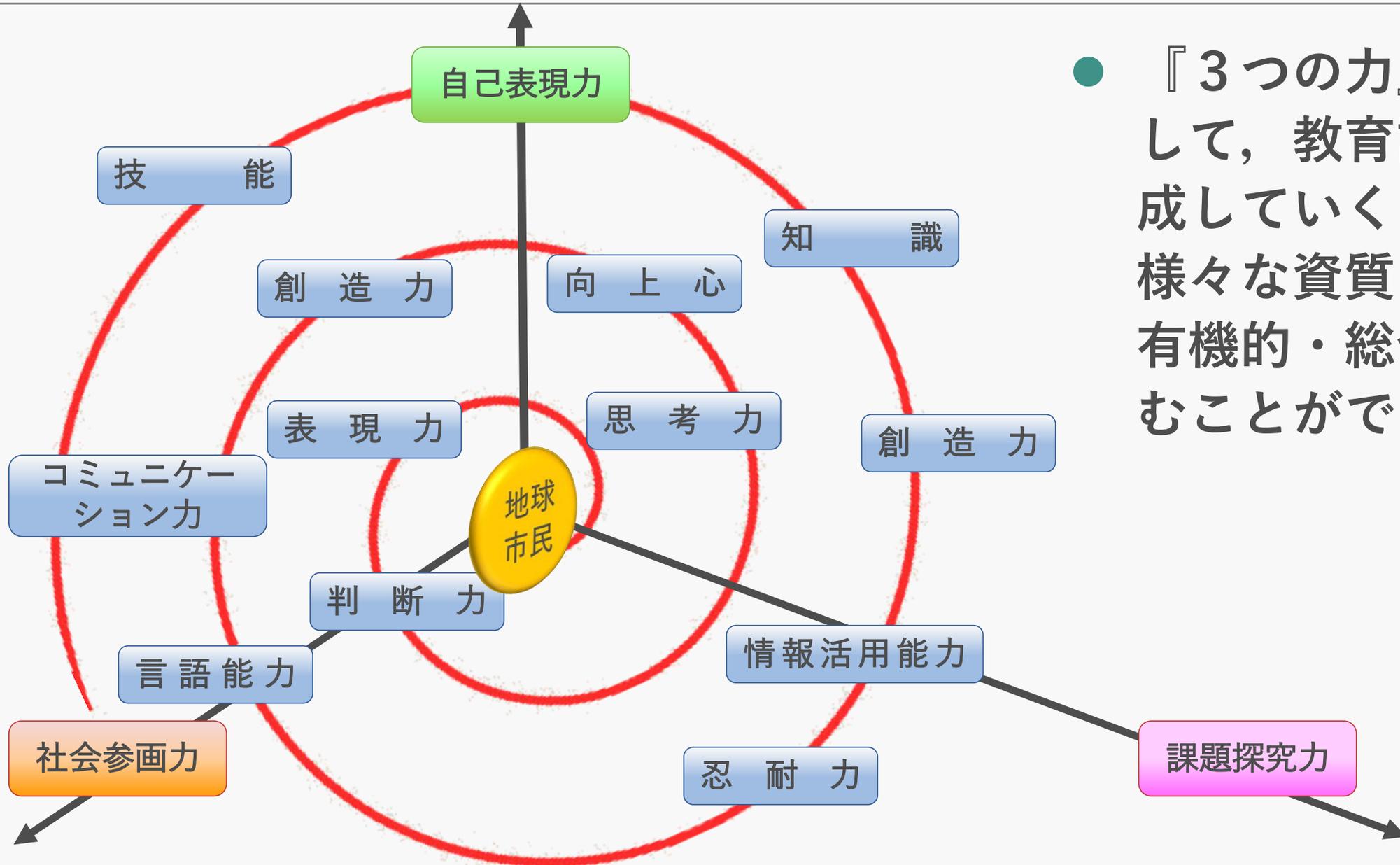
## 課題探究力



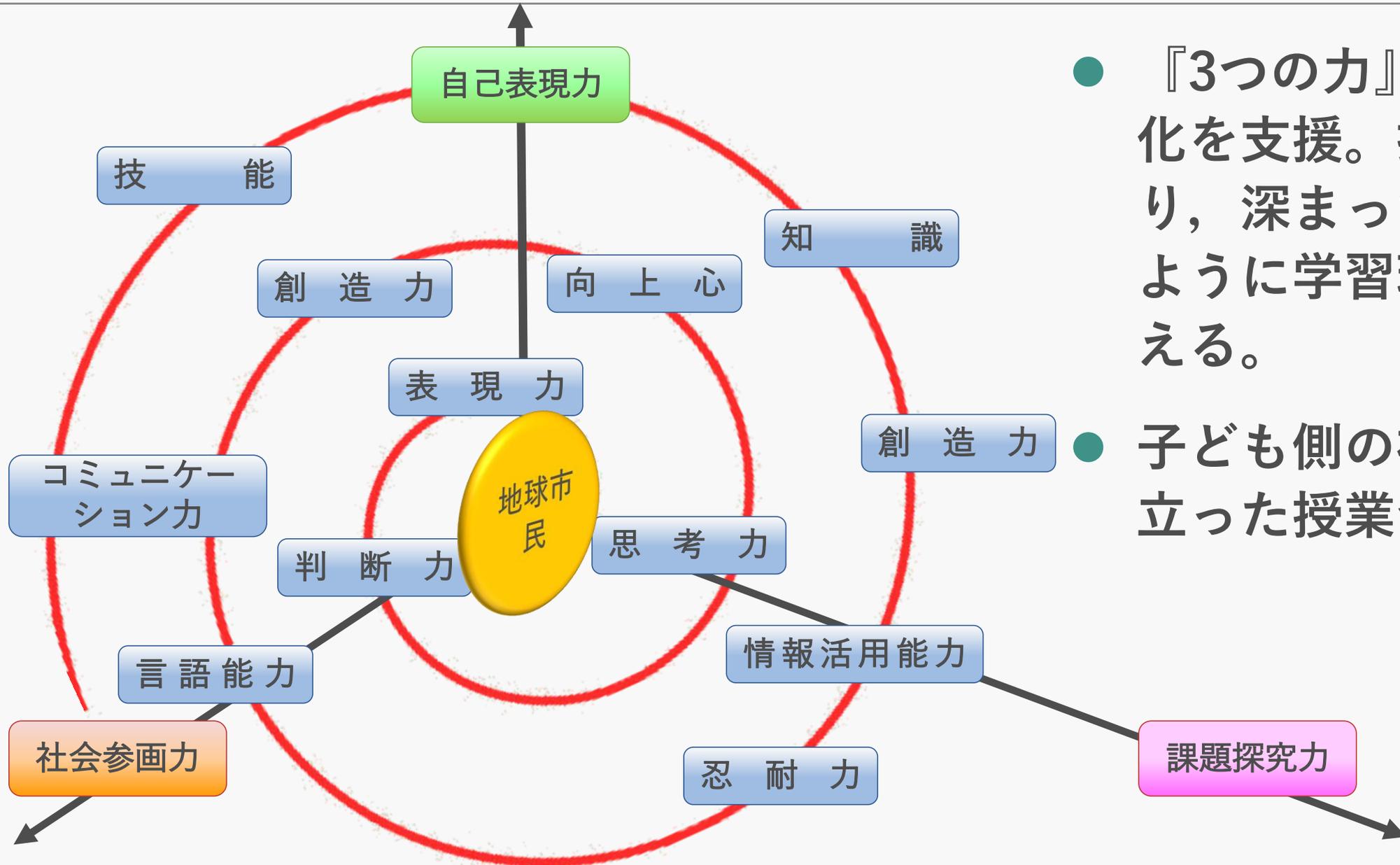
## 社会参画力



『**3つの力**』を軸とした12年間の教育課程が必要！

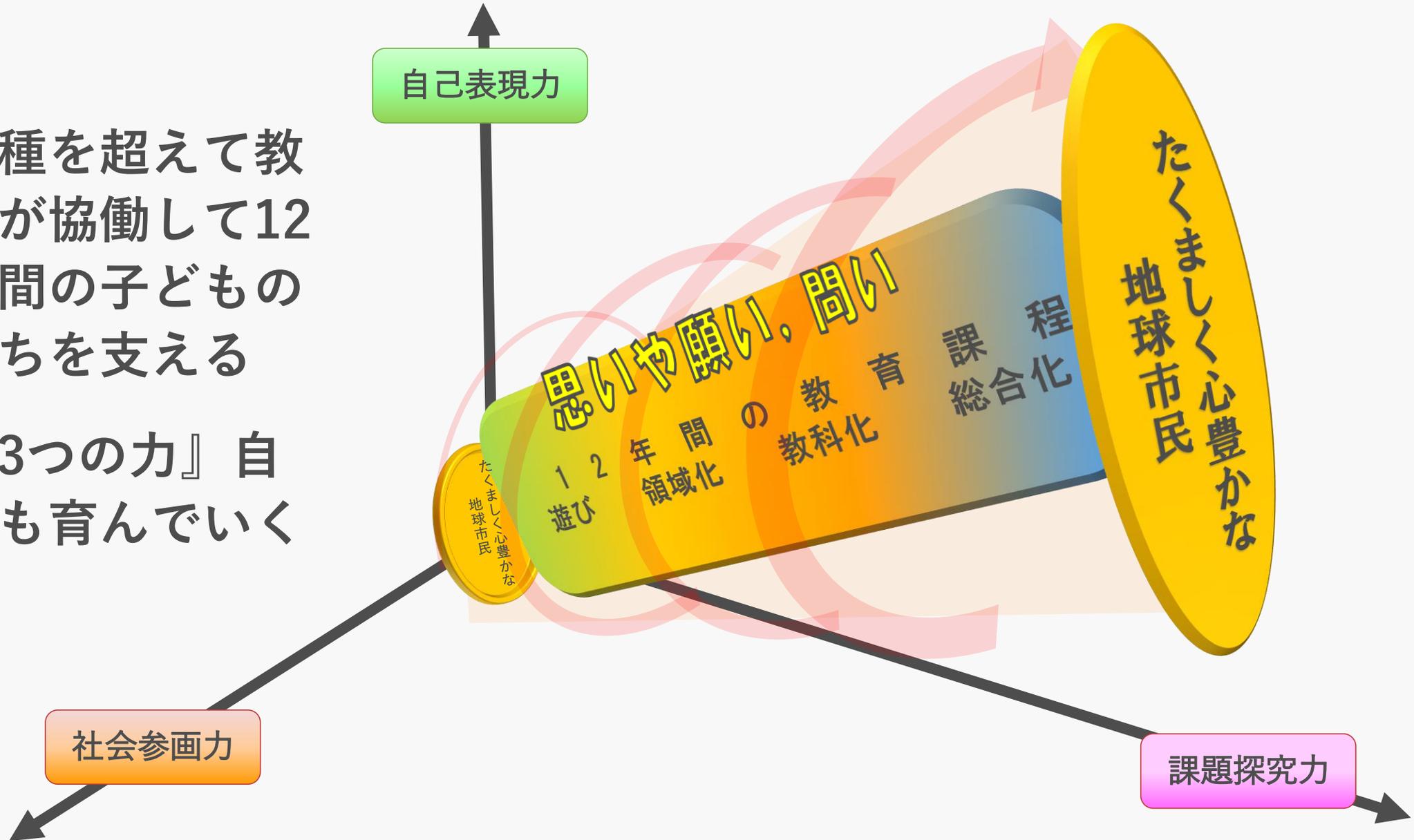


- 『3つの力』を軸として，教育課程を編成していくことで，様々な資質・能力を有機的・総合的に育むことができる。

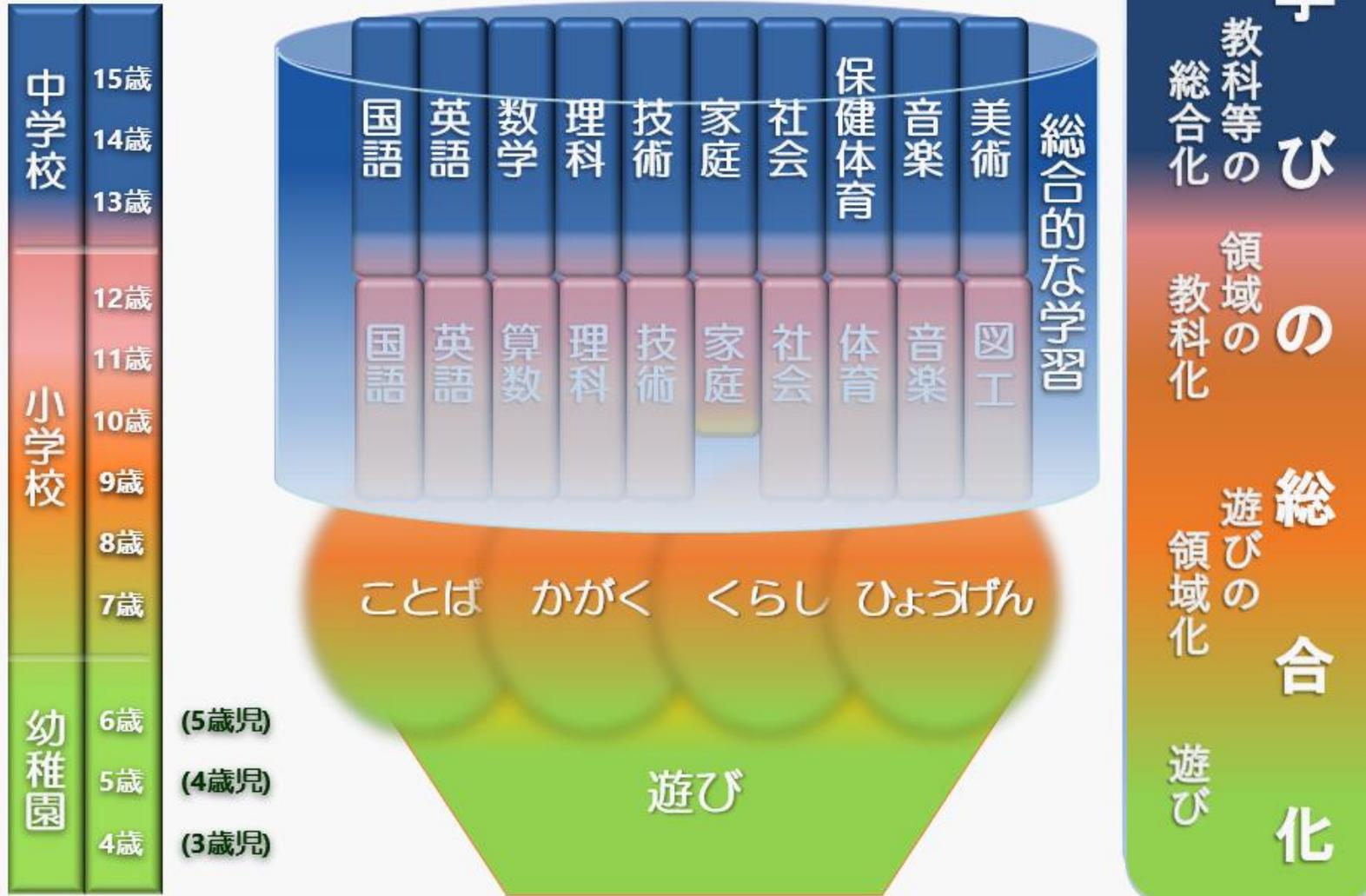


- 『3つの力』の顕在化を支援。拡充したり，深まったりするように学習環境を整える。
- 子ども側の視点に立った授業づくり

- 校種を超えて教師が協働して12年間の子どもの育ちを支える
- 『3つの力』自体も育んでいく



『たくましく心豊かな地球市民』を育む  
12年間の教育課程



実際の教科・領域は  
どのような内容に  
なっているの？

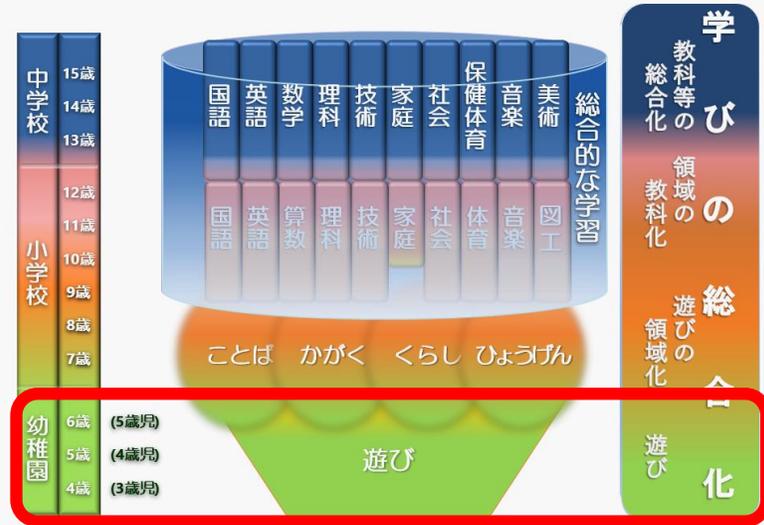


1. 本研究の成果
2. 「たくましく心豊かな地球市民」を育む『学びの総合化』
3. 『学びの総合化』における12年間の教育過程
4. 【遊びの領域化】から見る共有されたビジョン
5. 今後の課題と方向性

## 幼稚園 (4～6歳期)

～思いをもって

「遊びにうちこむ子ども」～



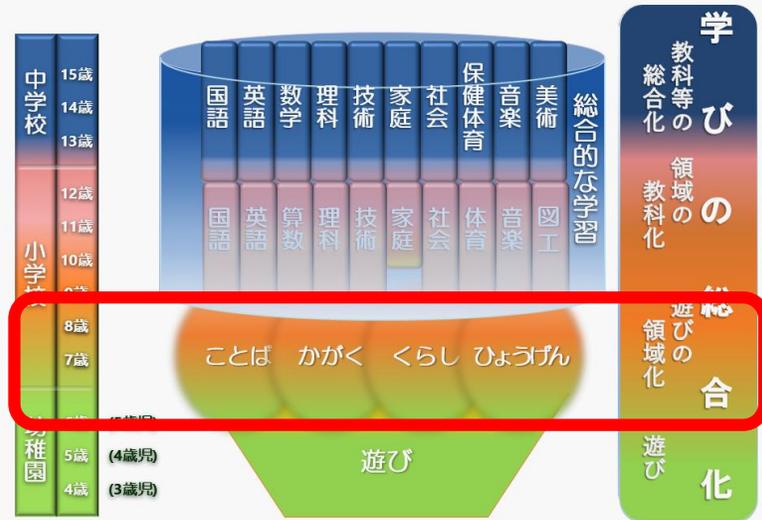
- 子どもの思いをつぶさに捉え、遊びにうちこむ姿を支えるための援助(遊びの環境・言葉かけ)を導き出す。
- 複数の目でより多くの子どもの思いを捉えていく
- 長期的な視点で子どもの変容を捉えていく



# 小学校低学年 (7~9歳期)

～やりたいを見いだし

動き出すこども～

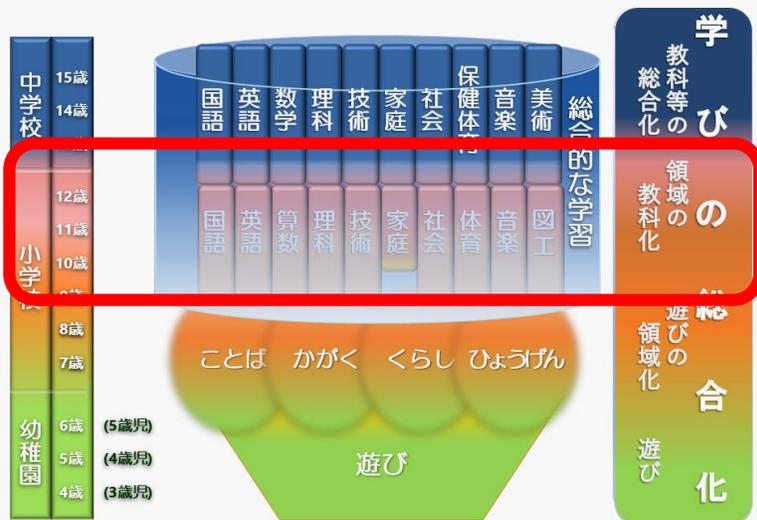


- 幼稚園の子どもの育ちを土台とした幼小接続
- 子どもの学びを支えるために、対象へのまっすぐな思いや願いを捉え、教師の願いと共に単元を構想→（緩やかな統合）
- 追究の素地を育み，幼稚園での学びをつなげていく子ども
- 『3つの力』の発揮を支えていく教師



## 小学校高学年（10～12歳期）

～もっと詳しく知りたい、  
できるようになりたいと願う子ども～

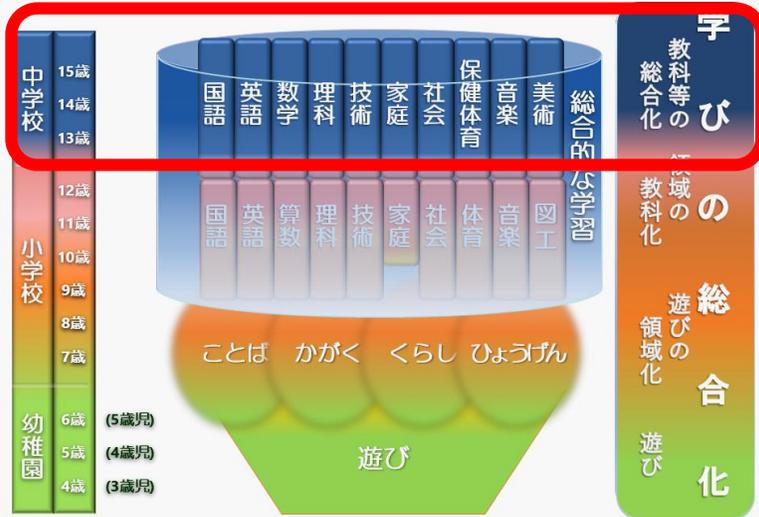


- 領域での子どもと同僚に学ぶ
- 子どもの学びを支えるために，より教科の本質に迫りたいという思いをとらえ，単元構想
- 教科の内容と子どもの理解の仕方を意味づける教師の専門性を磨く
- 子どもと共に育ちを実感し，授業づくりに活かす評価



## 中学校 (13～15歳期)

～学びを総合しながら、  
とことん追究していく子ども～



- 小中接続を保障していくカリキュラム構想
- これまでの土台があるからこそ，【教科等のの総合化】によって成長していく子ども
- 「生きた現実」に接し，各教科の見方・考え方，資質・能力を総動員して探究する「総合的な学習の時間」
- 教科等の見方・考え方をとことん働かせて，ものごとの多面性やつながりを見いだしていく「教科等横断的な学習」



具体的にはどんなことをやっているの？



1. 本研究の成果
2. 「たくましく心豊かな地球市民」を育む『学びの総合化』
3. 『学びの総合化』における12年間の教育過程
4. 【遊びの領域化】から見る共有されたビジョン
5. 今後の課題と方向性



## 【遊びの領域化】の意義



- 追究の素地を育み幼稚園での学びをつなげていこうとする子ども
- 『3つの力』の発揮を支える教師

## 複数の領域をまたぎながら試行錯誤できる単元構想



- 「一頭も死なせたくないから、三九郎をやりたい！」
- 必要な知識を求め，追究を深めていく子ども
- 蚕で遊ぶ→蚕と遊ぶ→蚕のために追究する
- 自発的な遊びから4つの領域の特徴的な学びを体得していく

## 複数の領域をまたぎながら試行錯誤できる単元構想



- 子どもの学び（『3つの力』の発揮）を支えるために
  - 子どもの解決に向けた手法や取り組みの保障
  - 学ぶねらいや資質・能力を捉え直す
  - 追究の過程を共有する場の設定

## 【遊びの領域化】の事例を語る教師の言葉



- 幼稚園「子どもを多面的に捉えるという点で同じ」
- 小学校高学年「子どもの捉え方は領域から学んでいるし，子どもの姿とねらう姿を考えながら単元を構想しているのは同じ」
- 中学校「中学生の次の科学的な探究に向かうのをどう支えるかというのは一緒だよ」

幼も，小も，中も，私たち教師が大切にしている魂の部分は変わらない  
今後私たちが目指している事



1. 本研究の成果
2. 「たくましく心豊かな地球市民」を育む『学びの総合化』
3. 『学びの総合化』における12年間の教育過程
4. 【遊びの領域化】から見る共有されたビジョン
5. 今後の課題と方向性

## 子どもにとっての学びのストーリーの 明確化と体系化

- 現在の子どもが次の段階に移行したときにどのような変容が見られているかのデータが不十分
- 子どもを学ぶをどう支えているのかを分析し、その知見を体系化できていない
- 子どもが学びの中で潜在的に行っていることを、実践を通して言語化したり、体系化したりすることを試みていく。

## 子どもの育ちやカリキュラムの効果をどのように評価するのか

- 『3つの力』の育ちをどのように捉えていくのかについての検討が不十分。
- 実践をどのようにデザインし、評価しているのかを分析し、体系化して明示するまでに至っていない。
- **信頼性・妥当性がより高くなるような評価方法の開発**

ご清聴ありがとうございました